

合國との間に締結せられたる條約の正文を發表せり。流石官府の出版物として本文は全部四號活字を用ひ、紙質も上等なれば、印刷鮮明、誠に堂々たるものなり。加ふるに附圖として、獨逸參謀本部の百萬分一地圖を以て、獨逸の新國境を示し、同十萬分一地圖を以て、ザール河流域、シュレスウィツヒ第二區、ダンテツヒ自由市の境界を示したり。之等の地圖は主要なる地名に日本語を附したるが、やゝ不鮮明なるは遺憾なり。條約の内容に就て已に屢論議せられ、今云ふ必要なし。今附圖に就て、余が求積計にて測定したる結果を舉げんに、ザール流域は一、八六〇方籽、ダンテツヒ自由市は一七、四〇方籽、シュレスキツヒ第一區は三、九〇〇方籽等にて、新獨逸の面積は約四十四萬餘方籽となるもの、如し。波蘭との條約は對獨條約と同日附に調印せられたるものにて、聯合國が波蘭をして、同國內の獨逸人、露西亞人、リニアニア人、ルテニア人又は新教徒、希臘教徒、猶太教徒の如く、種族、言語、宗教上少數に屬する國民に對し、其生命、自由、財産、信教、言語等の安全又は自由、公權、私權の享有等を保障せしめしものなり。新波蘭の地は從來言語、種族、宗教の差異による社會上の不穩著しかりし故、特に國際條約を以て、同國內の少數民族を保護したるなり。講和條約第八十六條によれば、チエコ、スロヅキア國も、國內の少數民族の利益を保護する爲、聯合國に對して、前同様の條約を締結する筈なり。尙朝陽會發行の書には黃浦江に關する一九一二年四月四日の追加假規定、國際阿片條約等を載せたり、本書には之なし。(外務省發行、非賣品)〔下田〕

彙報

● 故内田文學博士遺稿の出版

本會の創立に盡力せられ且つ永く評議員たりし故京都帝國大學教授内田銀藏博士の遺稿は昨夏以來其蒐集整理を怠ぎつゝありしが今般漸く其業を終へ博士の哲知受業者の間に於て博士の記念事業の一として之を鉛槧に附するの計畫を立て其第一冊は目下印刷に着手しつゝあり。遺稿は全部五冊、約三千頁に餘り博士の最も心力を注がれたる經濟史の研究に關するもの二冊を始め、國史總論及日本近世史一冊史學研究法及其理論に關するもの一冊其他の雜著を收めたる講論集一冊あり此等の遺稿は博士多年の潛研に係るものにして而も未刊のもの多く、必ずや學界の翹望を滿すべきものあると共に又僅密周囲の學風を以て譏說倦まざりし博士の面目を永久に傳ふべきものあらん遺稿の出版と同時に博士の油繪肖像青銅胸像製作の企圖あり。今回博く其の資金を醸めつゝあり。(寄附金は振替口座大阪五二四三、原勝郎氏宛拂込の事)

● 京都帝國大學史學科卒業生

京都帝國大學文學部史學科本年度卒業生左の如し。

橋川 正 (國史、依託)
 惣淵 一 (東洋史專攻)

松浦嘉三郎 (支那史、選科)

河原喜太郎 (西洋史、選科)

伏見 義夫 (地理學專攻)

(因に前號一一四頁下段所載京都帝國大學文學部史學科卒業論文題目中批判哲學と歴史哲學カント哲學への瞥見)村主岩吉と
したるは三木清の誤に付訂正す。

● 讀 史 會

見學、祝賀及び送別、さみだれ降りしきる六月二十七日、宇治
黄蘗山の見學を兼ね先般帝國學士院に於て恩賜賞受領の榮を荷は
れし三浦教授を祝し併せて遠らず海外留學の途に上らるべき西田
助教及び今回卒業せられし橋川正君を送るの意を表せん爲め、
午前十時先づ黄蘗山を訪ひ、其所藏の文書、書畫、遺品及び毘
堂等を覽る。明曆三年龍溪が隠元を宇治に招請せし所謂正統禪師
請啓、幕府閣老が歴代住職の退隱を許可せし奉書、寛政三年末派
寺院に與へし宗門規定、叢隱、隠元以下歴代の自贊の畫像、隠元
着用の千針縫の法衣及び其の遺物を認めたりと云ふ硯匣の如き殊
に注意を惹きたりそれより諸堂舎を歴覽し、居る事約三時間、去
つて山門前なる白雲庵に至り名物普茶料理を喫し終つて幹事の祝
辭及送別の辭に對する三浦教授及西田助教の挨拶あり三浦教授
は更に語を改めて其の審査に係る卒業論文に就ての批評及所感を
述べられたり、斯くて蕭々たる窓外の雨聲を耳にしながら歡談に
刻を移し興趣盡くる所を知らず、午後五時庵を辭して歸路に就く
當日の出席者は三浦教授、西田助教、江馬、魚澄、中村、牧、

富森、下川、桑原、鈴木諸學士、島田、源の諸君なり。

● 名古屋史談會

本會四月の例會にては關係之助氏の「中古女子の正裝」に就きて
の講演あり氏は鬘髻、唐衣、裳、表着、打袴、楡扇、疊紙等の遺
品又は模造品を示してその沿革性質より着用の次第に及び詳細に
説明せられ唐衣の襟を以て頒布の變化せるものととし裳の大腰とな
れりさせる伊勢貞丈の説、裳の掛帯に變形せりさせる關根博士の
説を斥けられしを初め傾聴すべき説多く、遺品中にては足利初期
さ見ゆる楡扇、平額、釵子、櫛、元結、かもし等の揃へる髮飾等珍
らしく思はれたり。この月又會員尾佐竹猛氏著「新聞雜誌之創始
者柳川春三」を發行して會員に配布せり。

六月の例會は縣下中島郡妙興寺に催し同寺所藏の史料を展觀せ
り同寺は足利氏と縁故深かりしため尾張に於て足利時代の史料に
富むこと同寺を最とし、且他の社寺の古文書にして現に同寺に藏
せらる、ものも少からずその種類の如きも論旨、御教書、下知
狀、禁制、寄進狀、賣券等を初め多様に互り注意すべきもの多し
疑問多き織田氏の沿革を徵すべき織田常松、常竹、遠勝以下織田氏
關係文書の豊富なる如きその一例なり繪畫にては唐畫の佛涅槃圖
最勝れ周風の贊あは足利義教畫像、南化の贊ある豊臣秀吉畫像等
も史料として貴重なるものなり堂塔は火災地震等のため往時の盛
觀を見るに由なきも勅使門は足利期禪宗建築の遺品として見るに
足るものあり。

七月の例會にては文學士栗田元次氏の「徳川綱吉の生類憐愍に

就いて」の講演あり綱吉の生類憐愍は單に迷信より來れる暴政として看過すべきものにあらざるその精神は殺伐不仁の蠻風を矯めて慈悲仁愛の美風を起さんとする文治主義的思想に出發し初期に從ては頑度な失ばざりしも後嗣子を得んこの熱望と隆光の勸告のため迷信的に陥り特に大を愛護すると共に彼れの極端に奔り勝なる偏執性により度を越ゆるに至れりとし、更に悪化の原因を考察して、綱吉の偏執性は學問、佛教、能樂等にも明なれど、特に信賞必罰に於て著しかりしが、他方には愛生令の犯則者の嚴罰となりて弊害を大きくせる上、柳澤吉保初め一般役人をして將軍母子の思想以上の迎合主義に傾かしめたり云々。(會員栗田元次氏報)

會報

編纂會 九月三日午後一時より陳列館貸資室にて開催、阪口、三浦兩評議員植村、岩橋、桑原、中村各委員、島田書記出席、第五卷第四號の編纂を了し第六卷第一號に就て議する所あり。

寄贈交換圖書

増訂萬葉集古寫本 佐々木信綱
 足利考古圖集 丸山源八
 史學雜誌 卅一の六七・八
 歷史地理 卅六の一・二
 考古學雜誌 十の十・十一・十二
 國學院雜誌 廿六の六・七
 飛騨史壇 六・七
 東洋哲學 廿七の七

日本歷史地理學會
 國學院大學
 飛騨史談會
 東洋大學

經濟論叢 十一の二・三 京都帝國大學經濟學會
 伊豫史談 廿一 伊豫史談會

會員動靜

朝鮮總督府學務局 田中梅吉
 (右紹介者、三浦周行)
 大阪市北區曾根崎中一丁目十六 吉川義雄
 (右紹介者、島田貞彦)
 大阪市天王寺西門前、大原社會問題研究所 山村喬
 (右紹介者、源豐宗)
 東京市芝區西久保巴町七七 藤本了泰
 (右紹介者、花見朔巳)

米田猪三郎 山本彌一郎
 退會

高松 清 小林民造 谷森饒男
 死亡

前號に掲げたる「ラウファー氏の
 新著に就いて」の正誤

頁	誤	正
六九	William	Williams
八二	Zsabra	Zsabra
八三	isfdrug	isfdruj
八四	Kutu	Kutu
八六	唐居	唐居
九一	Xsarva	Zsarva
九二	Khosran	Khosran
九三	種號	種號
九三	下の如き	下の如き